

ARIBから  
のお知らせ

---

「平成17年 電波産業年鑑」を発行

去る10月11日付で「平成17年電波産業年鑑」を発行しました。「電波産業年鑑」は、電波利用の実態を的確に把握できる情報を関係者に提供することによって、電波利用の理解が促進され、社会経済環境の変化に応じた事業計画の立案などに役立てていただくため、当会の「調査統計小委員会」で編集を進めてきたものです。

年鑑は、電波産業に関する情報・データを網羅した五つの章及び資料編からなる本誌と、電波産業調査統計（統計で見る電波産業の推移）の別冊により構成されています。

会員の皆様には、10月20日に発送致しました。活用していただければ幸いです。追加の必要な方には実費で頒布しています。

なお、別冊の電波産業調査統計につきましては、当会ホームページ「情報資料コーナー」に掲載準備中です。

【本誌の構成】

- 第1章 電波産業の構成と動向
- 第2章 電気通信及び放送サービスの動向
- 第3章 電波産業の技術動向
- 第4章 電波産業の海外動向
- 第5章 情報通信行政の動向
- 資料編 ARIBの活動、電波利用の歴史等

別冊 電波産業調査統計 ～統計で見る電波産業の推移～

- (1)構成 (2)無線局数 (3)事業者数 (4)市場規模
- (5)輸出入 (6)設備投資 (7)従業員数



## 電波行政の動き

### K a 帯 V S A T システムの技術的條件」についての情報通信審議会への諮問 K a 帯 V S A T システムの普及促進に向けて

総務省は、去る10月12日、情報通信審議会（会長：庄山悦彦 株式会社日立製作所 代表執行役 執行役社長）に対し、「K a 帯 V S A T システムの技術的條件」について諮問しました。

#### 1 諮問の目的

今回の K a 帯 V S A T システムの技術的條件に係る諮問の目的は、K a 帯 (30/20GHz) の特長（ブロードバンドサービスが可能、設備の小型化が可能）を活かした利用を促進し、C 帯 (6/4GHz)、K u 帯 (14/11-12GHz) では対応が困難な広帯域の映像伝送、データ伝送に関する需要の増大に応えようというものです。

今後、衛星通信の利用は、放送のデジタル化等に伴い、H D T V によるイベント中継、ニュース素材伝送、大容量の番組素材の伝送等広帯域の映像伝送需要が増大するとともに、ルーラル地域等における超高速インターネットアクセス需要が拡大すると見込まれています。

C 帯、K u 帯は周波数及び軌道位置の制約により、これ以上の需要の増大への対応が困難になってきていますが、広帯域の K a 帯はブロードバンドサービスに適するとともに、設備の小型化が可能であり、今後のニーズに低廉なコストで応えるものとして、その普及が期待されています。

また、利用者ニーズへの対応と併せて、政策的にも周波数再編（固定通信を、移動通信に適した低マイクロ波帯から高マイクロ波帯に再編）を進めており、衛星通信の利用も、C 帯、K u 帯から K a 帯へ移行させていくことが大きな方向性となっています。こうしたことから、K a 帯 V S A T に係る技術基準を策定し、既存の K u 帯 V S A T と同等の利用条件を整備（包括免許の対象とし、無線従事者を不要化）することにより、K a 帯本

来の特長を活かした利用の拡大を促進することを目的として、情報通信審議会に当該システムの技術的条件について諮問し、答申を求めるものです。

## 2 システムの概要

K a 帯 V S A T システムとは、K a 帯の周波数を使用し、超小型アンテナの地球局を用いる衛星通信システムをいいます(別紙 1 参照)。

## 3 答申を希望する事項

K a 帯 V S A T システムに係る技術的条件(使用周波数帯、周波数の許容偏差、変調方式、不要発射の強度の許容値、占有周波数帯幅の許容値及び空中線系の技術特性等)。

## 4 期待される効果

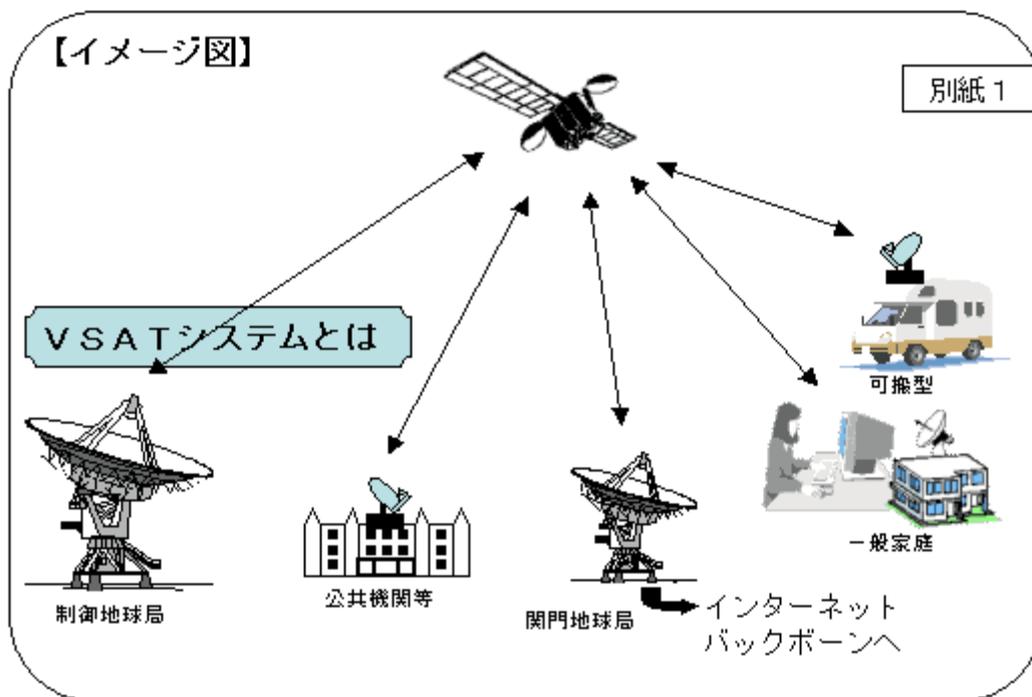
- (1) K a 帯の使用により、アンテナ口径が最小45cm程度で通信可能となり、K u 帯のそれが70cm程度であるのと比べて3分の2程度に小型化され、かつ広帯域のトランスポンダの利用によりブロードバンドサービスの提供が可能となります。
- (2) 審議会から答申された技術的条件に適合する V S A T システムについては、包括免許の対象とし、無線従事者の選任を不要とすることにより、無線局免許人の負担の軽減が図れます。

## 5 審議体制

固定衛星通信システム委員会を新たに設置し、本件審議を行います。

## 6 今後の予定

平成18年初頭に答申をいただき、関連規定の整備を行う予定です。



#### 【Ka帯VSATの特長】

- ・ブロードバンドサービスが可能
- ・設備の小型化が可能

#### 【技術基準策定で期待される効果】

- ・包括免許の対象（無線局免許申請手続の簡素化）
- ・無線従事者の選任の不要化

#### 【想定されるアプリケーション例】

- ・HDTV－SNG等
- ・超高速インターネットアクセス
- ・防災用IPメッシュ型ネットワーク

なお、詳細については [http://www.soumu.go.jp/s-news/2005/051012\\_3.html](http://www.soumu.go.jp/s-news/2005/051012_3.html) を参照して下さい。

欧州電気通信  
の動き

携帯電話の中継局規制法案、超党派議員が提出  
【La Tribune,2005/09/29】

仏下院の超党派の複数の議員が、携帯電話の中継局の規制に関する法案を提出した。法案では、住宅、又は学校、老人ホーム、病院等の施設から300メートル未満の地点に中継局を設置することを禁止するとしており、特例措置として市街地の場合では、100メートル以上離れることを条件としている。また、小中高校における携帯電話の使用禁止も盛り込まれている。

仏モバイル・テレビ実験開始  
【SFRコミュニケ,2005/09/28】

仏カナル・プリュス（ペイテレビ）、フィンランドのノキア（通信機器）、SFR（携帯事業者）、タワーキャスト（放送技術事業者）は、9月28日、パリ首都圏で、放送波を利用したモバイル・テレビの実験を開始した。使用する技術は、DVB-H。

実験は、受信の質、サービスの多様性、実験参加者による利用法、サービスのユーザー・ニーズへの適合性を評価することを目的としており、ノキアの端末『ノキア7710』500台が、カナル・プリュスの加入者250名とSFRの加入者250名に提供される。カナル・プリュスとSFRは、実験参加者の募集や管理等を担当。今後、ポケットTVや、自動車TVなどの他の端末でのテストも行なわれる予定。

編集後記

今年の夏は、ARIB内でも小泉さんの肝煎り（？）のクールビズの影響か、ネクタイをしめないで出社される諸兄が多く見受けられましたが、秋風が吹く昨今では、ネクタイをしめる方が戻って来たように思っていますが、このネクタイの起源はご存知ですよ。一説には、17世紀後半にクロアチアの兵士が、妻や恋人から送られた布を首に巻き付けて出陣したのが始まりなのだと。そして、17世紀にフランスの貴族が正装に取り入れ爆発的に流行し、現在に至るようです。

ところで、出張の度にHERMESを購入し続けた小生、好みが偏ったのか、我が家の女性人からの評判が“日光の手前”。最近LANVIN やGIVENCHYで、絞め直しを凶っていますが……。皆さんは、勝負の時のネクタイは決めていますか。

(編集子;SUM)